

# 事例研究報告

## 特別支援学校小学部児童に対する 一人で手洗いができるようにする指導

### 「一人で手洗いでできる」

自分で自分の行動を計測することで  
移動にかかる時間を短くすることができる

# 児童の実態

- ひらがな、カタカナ、3桁までの数字の読み書きができる。
- 動作や反応がゆっくりとしており、活動の合間に自分の世界に浸ることもあるので活動に時間がかかりがちである。
- 自発的に話し手に注意を向けることが難しい場面がある。聞いていれば、簡単な口頭指示を聞いて活動することができる。
- 手順書に沿って手を洗っているが、水道から流れてくる水に手をかざして感覚刺激を得ていることがある。

## 保護者の願い

- 時間的な見通しをもちながら、一人で落ち着いて過ごせるようになってほしい。
- 適切な方法で周りの人とコミュニケーションを楽しんでほしい。

## 教員の願い

- 教員の言葉かけや指さしがなくとも一人で行動できるようになってほしい。
- 今年度は、感染症対策のため、手洗いの回数が増えている。一人でもっと上手にできるようになってほしい。

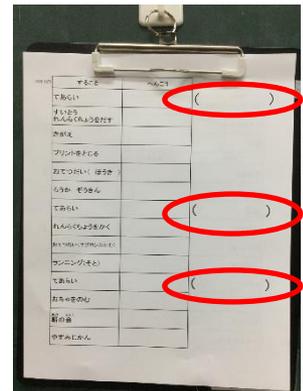
## アドバイザーからの助言

- 手洗い自体は上手にできている。むしろ手洗い場までの移動に時間がかかっている。自分で自分の行動の所要時間を計測することで移動にかかる時間を短くしよう。
- タイマーを自分自身で操作するという新しいスキルを教えよう。

# 助言を受けての見直し

## 環境設定

- スケジュール横にタイマーを準備する。
- 手洗い場前に足型を設置する。
- スケジュールの「てあらい」表記の横に記録箇所を設ける。



## 指導の手続き①

- 指導開始初期は、教員が児童の後方から腕や手を通じた身体的ガイダンスを行い、計測方法を教える。
- 第一段階として、所要時間の長短ではなく、所要時間の計測が手続き通りにできていたら称賛する。

## 指導の手続き②

### 計測方法

スケジュールの「てあらい」表記を読む。

→計測開始(タイマースタート)

手洗い場前の足型に立つ。

→計測終了(タイマーストップ)

## 指導の手続き③

- ①スケジュールを確認する。
- ②タイマーをスタートする。
- ③タイマーを持って移動する。
- ④手洗い場前の足型の上に立つ。
- ⑤タイマーをストップする。
- ⑥タイマーを置いて手を洗う。
- ⑦タイマーを持ってスケジュールまで戻る。
- ⑧スケジュールの記録箇所必要時間を記録する。

# 記録方法

- 児童自身がタイマーとスケジュールを活用して移動の所要時間を計測、記録する。

月15日

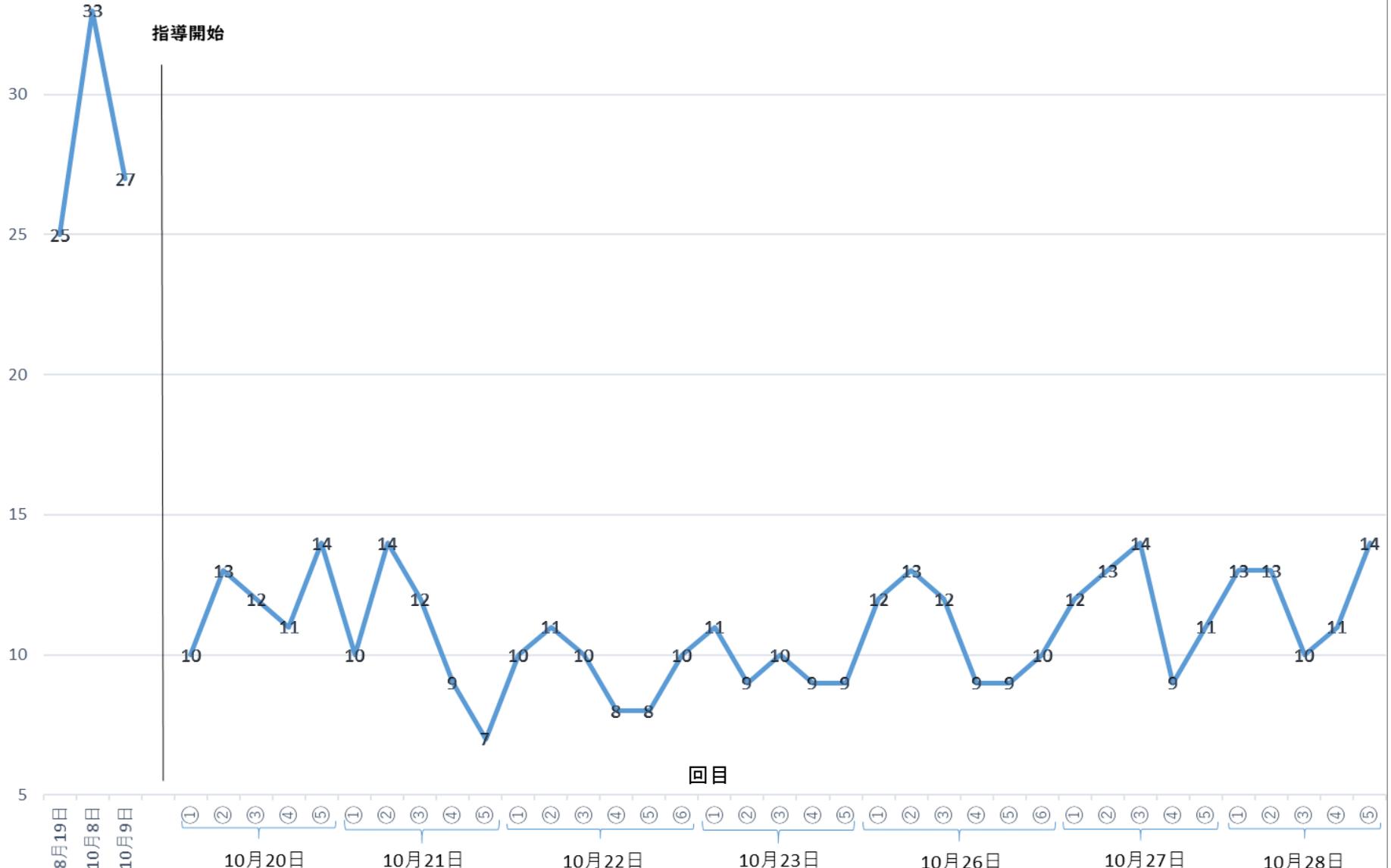
| すること               | へんこう    |         |
|--------------------|---------|---------|
| てあらい               |         | (00'07) |
| すいとう<br>れんらくちょうをだす |         |         |
| きがえ                |         |         |
| ろうかほうき             | ろうかぞうきん |         |
| てあらい               |         | (00'08) |
| れんらくちょうをかく         |         |         |
| おてつだい(エプロンたたむ)     |         |         |
| プリントとじる            | ランニングそと |         |
| てあらい               |         | (00'09) |
| おちやをのむ             |         |         |
| あさ かい<br>朝の会       |         |         |
| やすみじかん             |         |         |
| せんせいとべんきょう         |         |         |
| ひとりでべんきょう          |         |         |

# 記録

スケジュールを確認してから手洗い場まで移動するのにかった時間

秒

指導開始



# 指導の成果

- 教員によるプロンプト（言葉かけや指さし）が無くても、適切な時間内に一人で手洗いを遂行することができるようになった。
- トイレや着替えなどの途中で、言葉かけを必要としていた活動場面でも、タイマーを活用すると一人で適切な時間内に取り組むことができるようになった。
- 全体的にゆっくりと活動していたが、タイマーを導入した後は「いそぐ」ことや時間の経過を意識して活動できる場面が増えた。

# ここが成功のポイント

- 望ましい行動を増やす視点をもつことで、できる状況づくりの設定や教材の工夫の仕方に気付き、指導を展開することができた。
- 既存の学習システムに少しの工夫を加えることで、児童、教員の両者が負担を感じることなく、児童の自立場面を増やすことができた。
- 児童が新しいスキルを獲得することで教員による不必要な支援が減った。